

2)食育支援団体のネットワークの整備

(1)今後の方向性

「熊本市食の安全安心・食育推進会議」において、「熊本市食の安全安心・食育推進計画」の進捗状況や食に関する機関の施策の推進について審議を行い、食育推進体制の整備を図ってきました。また、平成17年度より「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」活動を実施しており、参加団体ごとの活動のみならず、相互に連携した食育活動を実施しています。今後は、区役所毎の活動・連携を強化しながら、さらに地域に根ざした活動に向けて取り組みます。

(2)取り組むべき施策

①関係団体とのネットワーク体制の整備と情報の一元化

「熊本市食の安全安心・食育推進会議」において、計画についての評価や進行管理、並びに食育に関する機関の相互連携に関する審議を通して、食育推進体制の充実を図ります。



「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」においては、参加団体が、それぞれの機関の機能や特性を十分に理解して、団体間の連携を強化し、食育活動を推進します。



(3) 成果指標

項目⑫	「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」における連携活動した団体等の割合 * 保育所・幼稚園が他団体と連携して食育に取り組んだ割合
基準値	37.6% (平成 24 年度)
目標値	60 % (平成 30 年度)
出典資料等	「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」 アンケート調査

(指標とする理由)

それぞれの団体が活動するのみならず連携した食育の取り組み状況を把握することが、食育実践活動の広がりを見極めるうえでの指標と考えます。

(4) 具体的な取り組み

- 「熊本市食の安全安心・食育推進会議」を設置し、本計画の進行状況を把握していきます。
- 食育に携わる団体の、「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」への加入を促進し、区役所ごとの地域研修会などを活用して地域ごとのネットワークの充実を図ります
- 広く関係団体との情報交換を密にし、ネットワーク構築に努めます。

(5) 市民・関係団体・行政の役割

市民(消費者)	生産者	食品関連事業者	教育関係者等	行政
<ul style="list-style-type: none"> ● 関係団体や行政が発信する食育情報の収集を心がける。 ● PTA活動を通じて親同士のネットワークづくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係団体との情報交換に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係団体との情報交換・連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 乳幼児期の食育については「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」を中心として推進する。 ● 食品関連事業者等関係団体との連携強化・ネットワーク体制の整備に努める。 ● 区役所保健子ども課等と連携した食育活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「熊本市食の安全安心・食育推進会議」において、関係団体とのネットワーク体制の整備・食育運動の推進に努める。 ● 「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」加入者と連携をとり研修会や食育活動の充実を図る。 ● その他、関係団体とのネットワークにおいて、食育推進に努める。

※教育関係者等とは、教育・保育・養護・介護・医療及び保健に関する職務に従事する人や関係機関及び団体をいいます。



私たちは、「楽しく食べる子どもを増やし隊」です！

熊本市子どもの食育推進ネットワーク

熊本市では、食育の中でも特に重要な乳幼児期の子どもたちとその保護者が地域の身近なところで「食」に関する情報が得られるよう、保育所・幼稚園、小学校、栄養士会、民生委員・児童委員、食生活改善推進員など、乳幼児期の「食」に関わるさまざまな分野の関係者と行政が協働で、「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」を設置し、地域で食育活動を展開しています。

このネットワークでは、「食育ってどういうこと？」「バランスよく食べさせるってどうしたらいいの？・・・」といった個別のご相談から、親子クッキング教室や栄養講座、収穫体験等、子どもの頃からの「食体験」のお手伝いをしています。

熊本市子どもの食育推進ネットワーク

あなたの食育を身近なところで応援しています！

民生委員・児童委員
「子育ては大変」と一人で悩まず、ご相談ください。一緒に楽しく子育てしましょう。
子育ての楽しみを共有しよう！

九州農政局
地域で取り組まれている食育活動を九州農政局のホームページで紹介し、食育の取組を支援しています。
ホームページを見てね！

熊本市
食育に関するあらゆる分野で、「楽しく食べる子ども」に育てるお手伝いをします。
私たちにかかせて！

食生活改善推進員
お料理できるかな？「地域ののお母さんヘルプスメイト」と楽しくお料理しながら、身の大切さを伝えてみませんか？
親子料理やエプロンシアターをやっています！！

幼稚園
「バランスよく食べさせなくちゃ！でもどうしたらいいの？」
園の中で楽しく「食」とふれ合います。地域の方もお気軽にご相談ください。

保育所
「みんなで食べるお楽しみね」食育を通してみなさんの食育を応援しています。
食べものはどこからくるの？

子育て支援センター
「食」に関する不安や疑問。そんなときは…。
地域の子ども達やその保護者の食育を支援します。お気軽にご利用ください。

栄養士会
「食べるってどんなこと？」が楽しくなってなまに？子どもの心と体を育てる食育。栄養士会がお手伝いします。
栄養講習会やからのおしゃべりやっています！！

乳幼児期の食に関する様々な分野の専門家が、「あなたが必要とする食の情報」を提供します。個別の相談から集団の勉強会・体験学習まで、いろんなメニューでみなさんの食育をお手伝いします！

「ちょっと聞いてみようかな？」から楽しい食育はじめませんか？

熊本県庁 健康づくり推進課 328-2145
中央区役所 保健子ども課 328-2419
東区役所 保健子ども課 367-9134
西区役所 保健子ども課 329-1147
南区役所 保健子ども課 357-4138
北区役所 保健子ども課 272-1128

くまもとのおいしい食文化を「ぐるり」
<http://www.kumamoto-welcome.jp/umakuchiku/index.php>

Ⅳ くまもとの自然環境と食文化に根ざした食育の推進

1)生産者と消費者の交流促進

(1)今後の方向性

生産者と消費者の交流や農林漁業体験を通して、食への関心と食育への大切さへの理解の向上を図ります。

(2)取り組むべき施策

22 生産者と消費者の交流会の開催

食の生産に関する理解を深め、生産者と消費者がともに「くまもとの食」を支えあい、相互の信頼関係を構築するための交流の機会を提供します。

23 農林漁業体験を通じた食育活動の推進

教育ファーム等で、幼い頃から様々な農林水産業体験を通して、食べ物に対する感謝の念や生命の大切さを感じる心を育む機会を提供するよう努めます。

(3)成果指標

項目⑬	農林漁業体験を経験した市民の割合
基準値	37.7%(平成24年度)
目標値	50%(平成30年度)
出典資料等	熊本市食の安全安心・食育推進計画に関する市民アンケート調査

(指標とする理由)

農林水産物の生産に関する体験活動の機会を提供することで、食に関する関心や理解の増進を図ることができます。

(4)具体的な取り組み

- 農林漁業者、食品関連事業者、関係団体等が地域で行う体験学習を促進します。
- 生産者とふれあえる機会、農産物直売所紹介などの情報を充実させます。
- 学校農園等を活用し、栽培・収穫・食するという各段階の中で、育てることの大変さ・収穫の喜び・食べる嬉しさ等を体験できるよう促します。
- 田畑や漁場などの生産風景や豊かな自然等を、ホームページや広報誌を通じて、発信していきます。

(5) 市民・関係団体・行政の役割

市民(消費者)	生産者	食品関連事業者	教育関係者等	行政
<ul style="list-style-type: none"> ●食の大切さを考え、教育ファーム等の農業体験を通じて、第一次産業の重要性を理解する。 ●「生命」をいただいていることに感謝する気持ちを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民(消費者)との意見交換や教育ファーム等の体験の場を積極的に設け、相互理解を図る。 ●生産者は、自ら行っている食育に関する活動を積極的にPRする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生産者と市民(消費者)との橋渡しとして交流促進を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校農園等を活用し、栽培の楽しさ・収穫の喜びを体験させる取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育ファーム等の農林漁業体験の場を官民両方で設け、体験活動の場を提供する。 ●生産者とふれあ得る機会、農産物直販所等を紹介する。

※教育関係者等とは、教育・保育・養護・介護・医療及び保健に関する職務に従事する人や関係機関及び団体をいいます。



第4章

食育の推進

2)地産地消の促進

(1)今後の方向性

「地産地消」を認知している市民の割合は、70%で目標値を達成しました。学校給食における地元産物を使用する品目数も割合も増えてきています。今後、さらに「地産地消」に努め、行動につながるよう取り組みます。

(2)取り組むべき施策

24「くまもとらしさ」を活かした地産地消の推進

地元の産物を購入する市民を増やすために、地元産物の情報提供に努め、地産地消の理解向上に努めます。

25学校給食や飲食店等への地元産物のPRと活用促進

学校給食は、食に関する「生きた教材」であり、地場産物を使用することで、地域の自然や文化、産業等に関する理解を深めることにもつながります。

そこで、学校給食や市民に身近な飲食店等において、さらに地元産物の利用を進めます。また、「くまもとのおいしい農産物」をPRして活用に努めます。

(3)成果指標

項目⑭	進んで地元農産物を購入する市民の割合
基準値	69.4%(平成24年度)
目標値	80%(平成30年度)
出典資料等	熊本市食の安全安心・食育推進計画に関する市民アンケート調査

項目⑮	学校給食における地元農産物を使用する品目数
基準値	39品目(平成23年度)
目標値	45品目(平成30年度)
出典資料等	使用実績

(指標とする理由)

進んで地元農産物を購入する市民を増やすことや学校給食で地元農産物の使用品目が増加することは、生産者の努力や食に関する理解の増進を図ることができます。